

## トマトの生長に触れて

刈谷市立富士松南保育園（愛知県刈谷市） [2歳児]

子どもの姿	保育者の援助
<p><b>&lt;6月27日&gt;トマトを見付ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだほとんどトマトができておらず「なーい」と言いながら、なかなか見付けられないながらも、じっくりと探す。</li> <li>・見付けたトマトを「あった！」と驚いたように保育者に知らせ、不思議そうにじっと見つめる。</li> <li>・次の日も戸外に出ると、トマトを探しに行き「ここにもあった」と喜ぶ。</li> <li>・「大きくなーれ」と言いながら水やりをする。</li> <li>・実っているトマトを見て、「赤ないねー」と不思議そうな表情を見せる。</li> <li>・緑のトマトに触れてみる。苗から落ちてしまい、枝から取れたことに驚き、手をさっと引っ込める。</li> <li>・並んで実っているトマトを見て「これ、ちっちゃいね。赤ちゃん」と大きさの違いに関心をもつ。</li> </ul> <p><b>&lt;8月10日&gt;水やりを楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トマトさん飲んでね」「こっちのトマトさんにもあげよう」などと言い、トマトの水やりを楽しむ。</li> <li>・トマトの実に水を掛ける子どももいる。</li> <li>・トマトの根を見て、土に水を掛ける子どもも出てくる。</li> <li>・水やりをしながら「あ、ここにもトマトある」「こっちにもある」などと実ったトマトを見付け喜ぶ。</li> <li>・緑色のトマトを指差しながら「こっちは子どものトマト」と言い、赤くなったトマトを指して「こっちは大人のトマト」と言う。</li> </ul> <p><b>&lt;8月22日&gt;収穫したトマトを触って</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虫が食べた穴を見付け、「穴が開いてる」と不思議そうに保育者にトマトを見せる。</li> <li>・「なんだろうね」と考えた後、「虫さんが食べたんだよ」と虫の存在に気付く子がおり、周りの子はその答えに納得していた。</li> <li>・皮がはち切れそうなトマトを触り、少し力を入れて持った為トマトがはち切れ、中からトマトの種が勢いよく飛び出し驚く。</li> <li>・トマトの中から飛び出てきたものに対して「緑色」「ジュルジュル」などと、目で見たその物の状態を言葉に出して言う。</li> <li>・他のトマトにも種が入っているか見ようとする。皮に割れ目のないトマト、緑のトマトは自分で割れず、割れ目の入ったトマトを選んで割り、中を見ようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トマトの苗の近くに水を張ったタライとカップを用意し、トマトに水やりをしながらトマトの変化に関心もてるようにする。</li> <li>○「トマトさん大きくなーれ」などと声を掛けながら、一緒にトマトに水やりをする。</li> <li>○「トマトできてきたね」と子どもと一緒に実りを喜ぶ。</li> <li>○トマトが落ちて驚いている子どもには、「まだ赤ちゃんトマトだから触ったら落ちちゃうんだよ。そーっと触るか見るだけね」と声を掛ける。</li> <li>○「赤ちゃんトマトだね。大きくなったらこっちのトマトになるね」と、大きさの異なるトマトを指差しながら生長を知らせる。</li> <li>○「大きくなってね」「のどが渴いているよね、飲んでね」などと声を掛けながら子どもと一緒に水やりをする。</li> <li>○「ここからトマトはお水を飲むんだよ」とトマトの根を一緒に見ながら話をする。</li> <li>○「本当だ、こっちにもトマトがあるね」「先生もトマト大好き。美味しいよね」などと、子どもが感じて発した言葉に共感する。</li> <li>○「何の穴だろうね？」と言いながら一緒に穴を見る。</li> <li>○子どもが考え、気付いた後、「そうだね、美味しいトマトだから虫さんが食べに来たのだね」などと受け止める。</li> <li>○子どもの驚きの気持ちに寄り添いながら、「トマトからピュッと出てきたね、これ何かな？」と飛び出した種を見せる。</li> <li>○トマトの中がどのようなになっていたのか聞いたり、子どもから出た言葉を、一緒にトマトを見ながら受け止めていく。</li> </ul>



**みどころ** 「触れて味わって楽しめる植物」の環境が身近にあることで、2歳児なりに興味をもち、見たり触ったり、探索したり、自分のペースで自由に関わることができました。また、温かな信頼関係を基盤に子どもに寄り添い、感じたままを丁寧に受け止める保育者の援助は、子どもたちの「科学する心」を膨らませ育むことに繋がります。